
** ソフトウェア説明書 **
** Systemwalker Centric Manager SAP R/3 CCMS連携ツール **
** *****

[高度な安全性が要求される用途への使用について]

本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的な用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本ソフトウェアを必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本ソフトウェアを使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

- ・本ソフトウェア、および付属物についての著作権は、富士通株式会社が有します。
- ・本ソフトウェアを複製、再配布することはできません。

Microsoft、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sunロゴ、Solaris およびすべてのSolarisに関連する商標及びロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。

Systemwalker 及びSystemWalkerは、富士通株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

All Right Reserved, Copyright (c) 富士通株式会社 1995-2007

1. 製品概要

WebサイトよりダウンロードされたSystemwalker Centric Manager SAP R/3 CCMS連携ツール(以降 SAP/R3 CCMS連携ツール)は、SAP R/3のCCMS監視機能であるリソースのしきい値越え等を監視して、検出したアラート状態を、SAP社が提供するSAP RFC API群を用いて取得し、イベント情報をSystemwalker Centric Managerイベント監視機能で監視する機能を提供するものです。

本製品は、Linux(Red Hat Enterprise Linux)、WindowsまたはSolaris上で動作し、メッセージをsyslogまたはイベントログに出力する機能を有している製品で、インターネット非対応製品です。

2. マニュアルについて

導入及び、設定方法の詳細については以下のマニュアルを参照ください。

Systemwalker Centric Manager 導入手引書 SAP R/3 CCMS連携

3. 留意事項

WebサイトよりダウンロードされたSAP R/3 CCMS連携ツールをインストールするにはSystemwalker Centric Manager及び、SAP R/3 がインストール済みであることが前提になります。

4. 動作環境

動作環境として以下のOS、ソフトウェア環境を前提とします。

下記OS環境に記載されているOS上で動作するSAP R/3 CCMS連携ツールを“Linux版”と略しています。

[Linux版]

OS環境

- ・ Redhat Enterprise Linux AS4 (OSパッチU02) IA64/x86_64

ソフトウェア環境

- ・ SAP NetWeaver 2004s
- ・ Systemwalker Centric Manager SE/EE 13.1 以降
- ・ Systemwalker Event Agent SE/EE 13.1 以降

ディスク容量

- ・インストールモジュール：0.1MByte
- ・トレースファイル：500KByte × 3

合計：1.6MByte

メモリ容量

- ・メモリ使用量：10MByte

下記OS環境に記載されているOS上で動作するSAP R/3 CCMS連携ツールを“Windows版”と略しています。

[Windows版]

OS環境

- ・Windows(R) 2003 Server EE/SE SP1

ソフトウェア環境

- ・SAP NetWeaver 2004s
- ・Systemwalker CentricMGR SE/EE V10.0L20 以降
- ・Systemwalker Event Agent SE/EE V10.0L20 以降

ディスク容量

- ・インストールモジュール：0.1MByte
- ・トレースファイル：500KByte × 3

合計：1.6MByte

メモリ容量

- ・メモリ使用量：10MByte

[Windows for Itanium版]

OS環境

- ・Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems SP1/2
- ・Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems SP1/2

ソフトウェア環境

- ・SAP NetWeaver 2004s
- ・Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L11 以降

ディスク容量

- ・インストールモジュール：0.1MByte
- ・トレースファイル：500KByte × 3

合計：1.6MByte

メモリ容量

- ・メモリ使用量：10MByte

下記OS環境に記載されているOS上で動作するSAP R/3 CCMS連携ツールを“Solaris版”と略しています。

[Solaris版]

OS環境

- ・Solaris (TM) 8 Operating Environment
- ・Solaris (TM) 9 Operating Environment
- ・Solaris (TM) 10 Operating Environment

ソフトウェア環境

- ・SAP NetWeaver 2004s
- ・Systemwalker Centric Manager SE/EE 13.1 以降
- ・Systemwalker Event Agent SE/EE 13.1 以降

ディスク容量

- ・インストールモジュール：0.1MByte
- ・トレースファイル：500KByte × 3

合計：1.6MByte

メモリ容量

- ・メモリ使用量：10MByte

5. 製品構成

[Linux版]

- 32bit版：lin32_mpaossap.exe
- 64bit版：lin_mpaossap.exe

上記ファイル（自己解凍形式）を解凍すると以下のファイルが作成されます。

```
¥lin_mpaossap¥mpaossap_cp.sh      (インストール用バッチファイル)
¥mpaossap_rm.sh
¥mp_aossap
¥mp_aosconv
¥mpaossap
¥ccms.ini
¥saprfc.ini
¥mp_aossap.inf_utf8
```

[Windows版]

32bit版 : win_mpaossap.exe
Itanium版 : win64_mpaossap.exe

上記ファイルを（自己解凍形式）解凍すると以下のファイルが作成されます。

```
¥win_mpaossap¥mpaossap_cp.bat      (インストール実行ファイル)
¥mpaossap_del.bat
¥mp_aossap.exe
¥mp_aosapmain.exe
¥librfc32.dll
¥mp_aosconv.exe
¥ccms.ini
¥saprfc.ini
¥setup.exe
¥unsetup.exe
¥mp_aossap.inf_sjs
```

[Solaris版]

sol_mpaossap.exe

上記ファイル（自己解凍形式）を解凍すると以下のファイルが作成されます。

```
¥sol_mpaossap¥mpaossap_cp.sh      (インストール用バッチファイル)
¥mpaossap_rm.sh
¥mp_aossap
¥mp_aosconv
¥mpaossap
¥ccms.ini
¥saprfc.ini
¥mp_aossap.inf_euc
```

6. インストール方法

[Linux版]

[Solaris版]

- 1) rootユーザにてログインする。
- 2) 解凍した全てのファイルを SAP R/3が動作するLinux システムに転送して任意のディレクトリにコピーします。
- 3) インストール用バッチファイル(mpaossap_cp.sh)に実行権限を与えます。
 - ・実行権限 `chmod a+x mpaossap_cp.sh`
- 4) インストール用バッチファイル(mpaossap_cp.sh)を実行します。
- 5) SAPシステムへ接続する場合に使用するユーザ名とパスワードを暗号化しファイルに格納する。(mp_aosconvコマンドを用います。)
 - ・mp_aosconv ユーザ名 パスワード
- 6) 上記コマンドにて生成された、mpsap_unm_pass.datファイルを下記ディレクトリにコピーします。
 - ・コピー先ディレクトリ `/etc/opt/FJSVfwaos/ccms`
- 7) 定義ファイルの調整を行います。
下記のファイルをインストール環境に合わせて編集します。
 - ・ `/etc/opt/FJSVfwaos/ccms/ccms.ini`
 - ・ `/etc/opt/FJSVfwaos/ccms/saprfc.ini`注1)

[Windows版]

- 1) 管理者権限ユーザにてログインする。
- 2) 解凍した全てのファイルを任意のディレクトリにコピーします。
- 3) インストール用バッチファイル(mpaossap_cp.bat)を実行します。
- 4) Windowsへのサービス登録を行います。
注1)

- 5) Windowsシステム環境変数、RFC_INIを設定します。既に環境変数RFC_INIが存在している場合と、新規に登録を行う場合で以下のように手順が異なります。
- ・既にRFC_INIが存在する場合
RFC_INIに登録されているファイルを編集する必要が有りますが、環境変数を変更する必要はありません。
RFC_INIに登録されているファイルにCCMS連携用定義データを追加してください。
- ```
DEST=SAPCCMS
TYPE=A
ASHOST=XXXXXX
SYSNR=XX
```
- ・新規にRFC\_INIに登録する場合、下記環境変数を追加します。
- ```
[変数名]
RFC_INI
[パス名]
"Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ" %Mpwalker%mpaosfsv%ccms%saprfc.ini
```

注1)

- 6) SAPシステムへ接続する場合に使用するユーザ名とパスワードを暗号化しファイルに格納する。(mp_aosconvコマンドを用います。)
- ・mp_aosconv ユーザ名 パスワード
- 7) 上記コマンドにて生成された、mpsap_unm_pass.datファイルを下記ディレクトリにコピーします。
- ・コピー先ディレクトリ
Systemwalkerインストールディレクトリ%Mpwalker%mpaosfsv%ccms
- 8) 定義ファイルの調整を行います。
下記のファイルをインストール環境に合わせて編集します。

```
[ディレクトリ]
Systemwalkerインストールディレクトリ%Mpwalker%mpaosfsv%ccms
[定義ファイル名]
ccms.ini
saprfc.ini
```

注1)

注1) インストールの各手順の詳細及び、インストール後のSAP R/3、Systemwalker Centric Managerのセットアップ定義はSAP R/3 CCMS連携 導入手順書を参照してください。

7. アンインストール方法

[Linux版]

[Solaris版]

- 1) rootユーザにてログインする。
- 2) 起動中のCCMS連携処理を停止します。
 - ・CCMS連携処理のデーモン停止を、下記コマンドにて実行します。

```
/etc/init.d/mpaossap stop
```
- 3) インストール媒体内にあるアンインストール用シェルに実行権限を与えます。
 - ・実行権限付与
chmod a+x mpaossap_rm.sh
- 3) インストール媒体内にあるアンインストール用シェルを実行します。
./mpaossap_rm.sh

[Windows版]

- 1) 管理者権限ユーザにてログインする。
- 2) 起動中のCCMS連携処理のサービスを停止します。
 - ・「スタートメニュー」-「設定」-「コントロールパネル」-「管理ツール」-「サービス」を選択
 - ・サービス一覧の中にある、「CCMS Cooperation MpAosSAP」を選択したのち「操作メニュー」-「停止」を選択します。
- 3) CCMS連携処理サービスの登録解除を行います。
 - ・インストール媒体内にある、サービスアンセットアップモジュールを実行します。
unsetup.exe
- 4) CCMS連携処理のインストール時に環境変数"RFC_INI"を新規に追加した場合と既に環境変数RFC_INIが存在していた場合で以下のように手順が異なります。
 - ・新規にRFC_INIに登録した場合
コントロールパネル内、「管理ツール」-「コンピュータの管理」を開きます。
 - ・メニューの「操作」-「プロパティ」の詳細タブを選択します。

環境変数の設定ボタンを押下し、システム環境変数内のRFC_INIを選択し削除ボタンを押下します。

- ・既にRFC_INIが存在する場合
Windowsシステム環境変数”RFC_INI”に設定されているファイル内より以下の4行を削除します。
DEST=SAPCCMS
TYPE=A
ASHOST=XXXXXX
SYSNR=XX
上記、XXXXXX、XXは各環境により可変値となります。

8. 制限事項

特記事項なし。

9. 非互換項目

以下のインストール後設定方法が変更になっております。

- 1) 本製品の動作環境の設定方法
- 2) SAP R/3の動作環境の設定方法

インストール後は本製品のSAP R/3 CCMS連携 導入手順書を参照して設定してください。

－以上－